

令和4年度

事業報告書

 社会福祉法人 御浜町社会福祉協議会

目 次

【組織の充実強化、法人の健全な運営への取組み】

- 1 組織経営の充実強化
- 2 人事労務管理・個人情報管理・リスクマネジメント対策
- 3 職員の資質向上と確保
- 4 基金・各種積立金と自主財源の確保
- 5 各種関係機関との連携、各種会議への出席
- 6 災害に対する取組み活動
- 7 情報発信の取組み
- 8 地域福祉活動計画の推進

【地域内の相談支援への取組み】

- 9 総合相談事業の実施
- 10 生活困窮者等支援活動の展開
- 11 権利擁護に関する相談・研究・協議
- 12 あんしん訪問相談事業
- 13 御浜町民生委員児童委員協議会との協働活動の推進

【地域づくりに向けた支援活動と地域福祉教育への取組み】

- 14 生活支援体制整備事業
- 15 ボランティアセンター事業
- 16 福祉意識啓発事業の実施
- 17 ささえあいサービス事業
- 18 ふれあいサロン
- 19 ふれあい配食サービス
- 20 子育てサロンの開催
- 21 子育て支援活動の展開
- 22 カフェ「Igo1笑」においての小地域福祉活動の展開
- 23 当事者及び当事者組織に対する支援の実施
- 24 神木ほのぼの館を活用した地域福祉活動の展開
- 25 児童生徒ボランティア啓発事業
- 26 みはまっこ体験クラブ
- 27 地域福祉教育推進事業
- 28 御浜町敬老会の開催
- 29 高齢者見守り活動活動の再構築
- 30 ボランティア育成事業の実施

【在宅で生活する方への福祉サービスの提供への取組み】

- 31 居宅介護支援事業(御浜町ケアサポートセンター)
- 32 訪問介護事業(御浜町ヘルパーステーション)
- 33 通所介護事業(御浜町デイサービスセンター)
- 34 訪問入浴事業(御浜町訪問入浴サービス)
- 35 特定相談支援事業・障害児相談支援事業(御浜町指定障害者相談支援事業所)
- 36 障がい者への訪問サービス事業(御浜町ヘルパーステーション)
- 37 障がい者地域活動支援センター事業(にこにこサービス)事業
- 38 福祉有償運送サービス事業
- 39 育児用品貸出事業
- 40 在宅介護者支援事業
- 41 見守り・緊急時対応システム事業
- 42 一般介護予防事業

【その他の取組み】

- 43 福祉系サークル等に対する協力
- 44 福祉健康センター指定管理事業

事業名	組織経営の充実強化
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	役員が社協運営への積極的参画を図るとともに、理事会、評議員会、役員による各種委員会等を開催し、地域福祉の充実と適切な経営についての研究・協議を行う。 また、職員の役職や職員種別における役割が機能する組織体制づくりを行い、組織経営の充実強化を目指す。
事業内容	<p>役員が一体となって社協運営（経営）を充実させるという意識の高揚を図り、社協本来の使命と役割を再認識し、社協発展強化計画や年度計画に合わせた事業実施や体制づくりを行う。</p> <p>1. 理事会・評議員会の開催 ○理事会 年4回 ○評議員会 年3回</p> <p>2. 各種委員会・会議の開催 ○三者会議の開催（随時） ○係長会議の開催（毎月1回） ○福祉サービス向上委員会の開催（毎月1回） ○各プロジェクト会議の開催</p> <p>3. 職員体制の強化 職員の役職や職員種別における役割や責任等を果たせる組織体制づくりを行う。また、環境や役割にあった適切な処遇についても併せて協議を行う。</p> <p>4. 組織に関する研修会への参加 ○労務管理講習会 ○社会福祉法人の経営に関する研修会 ○人事評価に関する研修会への参加 ○その他、法人運営に関する研修会への参加</p>
総評	役員については、各会議において積極的な質問や意見をいただくことで、社協の状況をご理解頂けたと感じている。 情報共有や効率化を目的にICTの導入を積極的に進めている。 人事制度の策定に着手しているが、完成まで至っていない。
課題	役員研修を予定していたが、コロナの状況や制度の改正により、実施を見送った。 働き方が大きく変わると共に組織としてのコンプライアンスがより重視される中で、総務機能の強化が必要となっている。
その他（所感等）	ICT化を進めることで、情報共有や効率化につながっているが、職員の操作度合いや費用等も考慮しながら進めていく必要がある。
改善への取り組み・方向性	人事制度を具体的にすすめるにあたって、引続き職員の役割とマインドセットを一体的に進めていく。
特記事項	
記入者	芝

事業名	人事労務管理・個人情報管理・リスクマネジメント対策
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	職員の人事労務管理(労働環境・健康等)の充実、個人情報の管理の徹底、各種リスクマネジメントへの対応を行うことで、社協の健全な経営を図っていく。
事業内容	<p>1. 人事労務管理関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①社会福祉法人役員及び幹部職員研修会へ参加 ②雇用管理や労務管理に関する講習会へ参加 ③働き方改革への対応 ほか <p>2. 個人情報管理関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①情報保護マニュアルの遵守 ②個人名簿等のデータベースを集中化し、クラウドサーバーを活用して管理 ③ICTに置ける情報共有ツールの導入 ④個人情報に関する考え方(プライバシーポリシー)の規程をHP上で公表 ⑤マイナンバーをクラウドサーバー(専用ソフト)で管理 ほか <p>3. 健康管理関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全職員対象とした健康診断とメンタルヘルスチェックを実施 ②労働衛生法に基づき産業医を委嘱 ③衛生委員会の開催(毎月1回) ほか <p>4. リスクマネジメント関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ①町福祉健康センターで職員と来場者を対象とした避難訓練を実施(年2回) ②感染症拡大予防等に関する対策 ③福祉サービス向上委員会でリスクマネジメントとヒヤリハットを協議(毎月1回) ④第三者委員を設置(2名) ⑤各係ごとに苦情解決担当者、苦情解決責任者を設置 ⑥交通安全や安全衛生に関する講習会へ出席 ほか
総評	適切に労働時間を管理すると共に給与計算の効率化を目的に、タイムカードシステム導入の検討をすすめた。
課題	労務や人事に関する制度改正の情報キャッチや適切な管理を行うために、職員の知識を上げていく必要がある。
その他(所感等)	労働時間を適切に管理することで、業務状況を把握し、働き方改革と処遇改善を合わせて進めていければと考える。
改善への取り組み・方向性	労務や人事に関する研修等に積極的に職員を参加させる。
特記事項	
記入者	芝

事業名	職員の資質向上と確保
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	社会福祉協議会の基本理念と職員の行動指針にそえる人材の育成と確保を目的として、社協職員として自覚と専門性を習得させる。また、業務に応じた職員の確保を行う。
事業内容	<p>三重県・県社協・紀南地域等で開催する各種研修会等に積極的に参加、また部内会議・研修等により豊かな人間性、倫理観、福祉に携わる社協職員としての質の向上を図る。</p> <p>また、専門知識を高めるための資格取得に対して、取得時の報奨金や取得に関する研修会への派遣や費用負担を行う。</p> <p>1. 社協の職員行動指針の徹底を図る。(朝礼時に唱和)</p> <p>①福祉専門職としての誇りと自覚を持ち、知識と技術に裏付けられた質の高いサービスを提供する。</p> <p>②常に住民や関係機関との協働を意識した行動をするとともに、地域においても自ら率先して福祉社会の発展に努める。</p> <p>③お客様の尊厳を保持するとともに、相談援助に際しては高い倫理意識を持って行動する。</p> <p>④常に地域福祉の充実という観点で福祉ニーズを意識し、柔軟かつ創造性に富んだサービスの開拓に努める。</p> <p>⑤職員相互が尊重し合い協調と連携のとれた業務を遂行するため、組織の一員として規律を遵守した行動をとる。</p> <p>2. 各種研修会により質の向上を図る。</p> <p>①介護サービス及び障害福祉サービス事業所集団指導へ参加(WEB)</p> <p>②採用時研修の実施</p> <p>③生涯研修会への参加</p> <p>④三重県及び紀南介護保険広域連合主催各種研修会へ参加</p> <p>⑤介護の技術や知識向上を目的とした研修会への参加</p> <p>⑥法人や地域福祉サービスの知識向上を目的とした研修会への参加</p> <p>⑦社協内の定期研修会や伝達研修会等の実施</p> <p>⑧その他各種連絡会議、ネットワーク会議へ参加 ほか</p>
総評	研修について、外部研修については引き続きWEBで実施されたものが多かった。部内研修については、様々な種類の研修動画が見れるサイトの契約を行い、研修の準備の簡略化と質を上げることができた。 係長を対象とした研修会も実施している。
課題	外部や内部の研修共に、業種や日常業務に応じた研修が中心となっているが、社協として生涯研修やキャリアパス研修等も計画的に行っていく必要がある。
その他(所感等)	介護支援専門員等の資格所持者の確保について、社協だけに限らず地域全体で福祉職員の確保が難しくなっている。
改善への取組み・方向性	職員教育を計画的に行えるよう、研修体系づくりを行う。
特記事項	
記入者	芝

事業名	基金・各種積立金と自主財源の確保
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	<p>安定的な社協の運営を行っていくために、社会福祉基金及び各種積立金額の一定額を保つとともに、自主財源の確保を図っていく。</p> <p>1. 介護保険事業・障がい者事業の収益を積立て、安定した経営基盤を整備する。</p> <p>2. 民間の寄附等により地域福祉活動の充実を図る。</p> <p>3. 社会福祉協議会会員の募集と会費の徴収により民間財源の拡充を図る。</p>
事業内容	<p>1. 社会福祉基金 法人化以前の行政が受けた寄附金と住民からの寄附金を積み立てている。使途内容は、預金利子の活動財源化と公共性が高い高額な福祉機器や大事業に活用。 (R5年3月末現在、45,654,358円)</p> <p>2. 社協基盤整備積立金 住民からの寄附を受けた際、使途が福祉事業や公共性の高いサービスに活用してほしいとの意向の際に積み立てている。 (R5年3月末現在、4,851,156円)</p> <p>3. 人件費積立金 介護保険サービス、障がい者福祉サービス等の収益を積み立てている。使途内容は、人件費の補填等に活用。 (R5年3月末現在、86,115,000円)</p> <p>4. 備品等購入積立金 介護保険サービス、障がい者福祉サービス等の収益を積み立てている。使途内容は、備品購入に活用。 (R5年3月末現在、36,563,534円)</p> <p>5. 社協会費 R4年7月～8月に社協役職員により町内全地区で会員募集と会費徴収を実施。 会員数：一般274件、賛助454件 会費総額：308,000円</p> <p>6. 共同募金等の財源 御浜町共同募金委員会の事務局として募金活動や配分活動を行っている。募金額により次年度の社協への配分額が決定される。 [配分実績額] 一般募金：1,139,361円 歳末募金： 29,257円</p>
総評	<p>社協会員については、育児用品の貸出サービス利用やマイクロバス貸出を通じて加入の促進を図っているが会員は減少している。</p> <p>寄附金については前年度よりは減少している。</p> <p>共同募金について、地域に還元される仕組みであることの周知活動に取り組んだ。一般募金については、目標額を大幅に上回った。(達成率106.5%)</p>
課題	<p>共同募金について、まだまだ地域へ還元されることや目的が認知されていないため、今後も継続して周知、啓発に取り組む必要がある。</p>
その他(所感等)	<p>共同募金について、一つの目的のために募金活動等をする事も可能となったことで、クラウドファンディング的な活用も検討していく。</p>
改善への取り組み・方向性	<p>寄附金と共同募金の使途について、より明確に住民に周知し理解を得ていく必要がある。</p>
特記事項	
記入者	芝

事業名	各種関係機関との連携、各種会議への出席
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	社協の役割として、幅広い関係機関との連携を図り、協働による事業推進は必要不可欠である。各種連絡会議・研修会や専門職との協働事業を通じ、経営に必要な情報・ノウハウを得て効率的な運営と幅広い事業展開を目指す。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 1. 紀南地域における各種会議等 <ul style="list-style-type: none"> ①熊野市・紀宝町・御浜町社会福祉協議会連絡会議への参加 ②東紀州地域社会福祉協議会事務局長会議への参加 (コロナにより中止) 2. 三重県社会福祉協議会等主催による会議等 <ul style="list-style-type: none"> ①三重県各市町村社協事務局長会議に参加 ②三重県地域福祉活動推進協議会に参加 ③三重県共同募金会に評議員として参加 ほか 3. 関係機関との会議等 <ul style="list-style-type: none"> ①御浜町民生委員児童委員協議会総会に出席 ②紀南地域生活支援体制整備事業協議体に参加 ③地域包括ケア会議に参加 ④紀南高齢者権利擁護支援体制連絡会に参加 ⑤紀南自立支援協議会に参加 ⑥専門職の協働が必要な各種相談等における会議の開催 ⑦生活協同組合コープみえとの情報交換会 ほか
総評	引き続きWEB会議も多かった。WEB会議についても、操作や慣れも含めて定着してきたように感じる。 会議ごとに目的は違うが、個別課題から地域課題にまで幅広い福祉課題に対しての共有と協議、対応につなげることができた。
課題	
その他 (所感等)	
改善への取組み・方向性	
特記事項	
記入者	芝

事業名	災害に対する取組み活動
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	東海・東南海・南海地震などの災害が発生した際、社協として円滑な業務ができることを目的に準備を行う。
事業内容	<p>◆発災時に職員が災害時事業継続計画(以下「BCP」と防災マニュアルに沿った円滑な業務が遂行できるよう研修等による確認を行う。</p> <p>◎備蓄物の確認(年1回)</p> <p>◎避難訓練の実施(年2回)</p> <p>◆災害ボランティアコーディネーターの技術向上を図ると共に備品等の整備を進める。</p> <p>◎災害ボランティアコーディネーター定期研修会の開催(毎月1回)</p> <p>◎災害ボランティアセンターマニュアルの随時改正</p> <p>◎災害ボランティア備品の整備(追加)</p> <p>◆その他</p> <p>◎御浜町と「災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定書」を締結</p>
総評	BCP・防災マニュアルに関しては、備蓄分の確認・避難訓練のみの取組みとなっている。 災害ボランティアコーディネーターについては、毎月の研修会を行うことにより、いつ発災するかわからない災害に備えている。また、研修会には御浜町役場健康福祉課と総務課の職員にも参加いただき、連携を図っている。
課題	
その他(所感等)	地震や水害に関するBCPは作成しているが、感染症に関する事業継続計画も必要となっている。
改善への取組み・方向性	感染症に関するBCPも作成する。
特記事項	福祉健康センターが福祉避難所となっており、御浜町と福祉避難所の設置運営に関する協定を締結し、避難所が開設された際は、できる範囲で協力することとなる。
記入者	芝

事業名	情報発信の取組み
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	住民への福祉啓発や福祉等の情報の提供とともに、社協の活動の理解やPRを目的に行う。
事業内容	<p>◆社協だより 実績: 広報みはまに折り込んで毎月発行。基本6ページ。 (5月・7月号のみ8ページ)</p> <p>内 容 ○表紙・行事予定カレンダー ○特集…御浜町のこと もっと知りたい! 伝えたい!、あいあい祭り) ○事業報告 ○福祉制度説明 ○ボランティア関連記事 ○社協事業案内 ○寄附 ほか</p> <p>◆広報委員会 実績: 毎月開催 委員: 職員8名 内容: 掲載記事・レイアウト等について</p> <p>◆ホームページの設置 内 容 ○社協紹介 ○事業の募集や案内 ○事業・決算報告 ○社協だよりの掲載 ○ブログ及びSNSによる事業報告 ○ご意見及びご相談に関すること</p> <p>Facebook登録数: 705件</p>
総 評	社協だよりでは写真を多く掲載し、SNSも活用することで、幅広い年代に向け事業の様子をわかりやすく伝えることができた。また、地域で活動している団体取材し紹介することが、活動者にとっても一つの評価となり、喜びの声が聞かれている。
課 題	Facebookや社協だよりなどで事業写真を多く掲載しているが、SNSやウェブサイトなどでも情報をより多くの人々に届けるためには動画も有効であると考えているが、ほとんど掲載することができていない。
その他 (所感等)	様々な活動取材することで、つながり作りのきっかけとなっている。 また、Facebookや社協だより等で写真を多く掲載することで、事業についてイメージしやすくわかりやすかったのではないかな。
改善への取組み・方向性	SNSで動画を多く掲載できるよう、動画制作のスキルを向上させる。
特記事項	
記入者	腰當

事業名	あんしん訪問相談事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	家族若しくは近隣との交流や福祉サービスの利用機会が少ない高齢者、心配される疾病又は身体障がいがある高齢者等を民生委員及び関係機関と連携し、地域福祉担当職員が月1回程度訪問することで、安否確認と会話の中から福祉ニーズの早期発見を行い、高齢者の福祉の増進を図ることを目的とする。
事業内容	<p>◆実績</p> <p>訪問回数：延べ 96回</p> <p>4月：9件 5月：10件 6月：8件 7月：7件</p> <p>8月：9件 9月：6件 10月：7件 11月：7件</p> <p>12月：9件 1月：7件 2月：9件 3月：8件</p> <p>対象者：8名(令和5年3月31日現在)</p>
総評	高齢者のみの世帯では、自身が抱える課題に気づかずに生活していることがある。そういった世帯を継続的に訪問することで、信頼関係を築き、徐々に問題解決に向けてアプローチできるようになってきている。今後も関係を構築しつつ、変化に合わせて必要なサービス等につながるよう訪問を継続していく必要がある。
課題	何らかの疾病を抱えていたり、複合する課題を抱えていたりと様々な方がいるが、本人が自覚していないことが多いため、訪問時の本人の様子や家の様子も確認しながら、ニーズを把握するノウハウが必要である。
その他(所感等)	課題を抱えつつも生活が成り立っている状況であるが、そのときから定期的に訪問してアプローチを続けたことで、サービスが必要となった時にスムーズにサービス利用につながるよう支援ができた。
改善への取り組み・方向性	重層的支援体制整備事業のアウトリーチ事業(本人同意なし)と参加支援事業(本人同意あり)の1つとして位置づけ、安否確認を含め継続的な訪問をする中で、信頼関係を構築し隠れたニーズや問題に対し支援の糸口を見つけていく。支援を要する際に、迅速に対応できるよう関係機関との連携を図る。
特記事項	
記入者	和田

事業名	御浜町民生委員児童委員協議会との協働活動の推進
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	厚生労働大臣の委嘱を受けた御浜町の民生委員児童委員と主任児童委員で構成される協議会の運営を支援するとともに、相互に協働・連携を図りながら地域福祉を高める活動を展開する。
事業内容	<p>◆総会、全体会議、研修会に関しての連絡調整や書記、会計業務を行う。</p> <p>◆実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町民児協総会の開催 ○全体会議（2回）の開催 ○役員会（2回）の開催 ○地区別民児協会議の開催 ○県民児協主催会議への参加（在宅福祉委員会 他） ○県民児協 理事会への参加 ○主任児童委員紀州ブロック会議・研修会への出席 ○県民児協 新任研修参加 ○社協との協働による要福祉対象者名簿の選定 ○社協との協働による高齢者見守り活動の展開 ○民生委員児童委員の日活動週間・役場庁舎への懸垂幕の掲示 ○町地域包括支援センター主催研修会への参加 ○老人情報誌「あくしゅ」の配布 <p>◆実施予定であったが新型コロナウイルス感染予防等のため中止・変更した事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○民生委員児童委員の日活動週間「街頭PR活動」⇒中止 ○主任児童委員による学校等訪問⇒中止
総評	社協が事務局を運営することにより、民生委員児童委員と密な連携を図ることができる。また、民生委員児童委員と関係機関との連携を取り持つことができるため、地域や個人への適切な支援へとつながっている。
課題	一斉改選によりベテランの民生委員が退任し、新人が増えたため、より丁寧な関わりが必要になってくる。
その他 (所感等)	今年度においてもコロナにより、一部事業について中止・見直しを迫られたが、継続できる方法を委員と相談しながら考え取り組むことができた。
改善への取組み・方向性	コロナの取り扱いの変更により、住民の中でも意識が分かれる可能性があるため、既存の日々の活動に工夫を加えることで、委員と連携を図り、活動が展開できるよう協議会の運営をサポートする。また、新人の民生委員への関りを丁寧に行い、活動が進められるようにサポートする。
特記事項	
記入者	仲

事業名	ボランティアセンター事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	町内のボランティア活動や市民活動が活発化するよう、福祉ボランティアのみならず様々なボランティア活動や市民活動の調整や支援を行う。また、新規ボランティアの開拓を行う。
事業内容	<p>◆延べボランティア活動者数: 1, 191人 (内訳)・配食サービス: 577人 ・子育て支援: 214人 ・サロン: 36人 ・環境美化: 98人 ・その他: 266人 新規ボランティア登録者数: 個人25人 (プチトマト、手話サークル参加者含む)</p> <p>新規ボランティア登録グループ: 3団体 相談・援助・支援延べ件数: 38件</p> <p>◆会議、研修会等の開催 ○しゅみ活動講座 ○災害ボランティアコーディネーター研修会 ○高齢者見守り活動ボランティア研修会 ○ボランティア連絡協議会会議 ○ボランティア連絡協議会役員会議</p> <p>◆会議、研修会の出席 ○ブックスタート研修会 ○御浜町ボランティア連絡協議会 ボランティアのつどい(いきいきわくわく交流会共催)</p> <p>◆ボランティア情報の提供・啓発 ○ボランティア情報誌「てんとうむし」の発行: 年2回 ○社協だより(ボランティアコーナー)の発行: 12回 (毎月1ページで発行)</p> <p>○ホームページ・フェイスブック: 随時</p> <p>◆その他 ○三重ボランティア基金街頭募金実施(阿田和ピネにて)</p>
総評	少しずつ活動が再開されており、講座をきっかけにして2つの団体がグループ化し、定期的な自主活動に取り組んでいる。また、デイサービス利用者支援として個人ボランティアの活動も始まり、様々な分野での活動支援が進んでいる。
課題	ボランティアの高齢化や活動内容の見直し、新しいグループとの調整、継続に向けての担い手の確保や育成なども重要な課題である。
その他(所感等)	コロナ禍で活動が休止していた期間、ボランティア自身の生活状況が変化し、コロナに対する不安よりも継続することへの不安が大きくなっているため、ボランティアの気持ちに寄り添いながら、生活状況を考慮した活動のコーディネーションを行うことが必要である。
改善への取り組み・方向性	地域に目を向け、組み合わせられる活動がないか、ボランティアと地域活動の共生も視野に入れながら、情報の収集と発信を行っていく。また、引き続き、ボランティアセンター登録者の整理や市民活動グループの把握を行い、休止中のボランティア団体への調整と活動内容の見直しを進めていく。
特記事項	
記入者	長田

事業名	福祉意識啓発事業の実施
財源元	<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	子どもから高齢者、障がい者、家族、地域など、みんなが人と人とのつながりの大切さについて考え、つながりのきっかけとなり、支え合いが広がり広く福祉に対する理解を深めていただくことを目的に事業展開を図る。
事業内容	<p>◆「チャレンジ第1回あいあい祭り」</p> <p>あいあい祭りを振り返る意味も含め、新たなチャレンジとして、今だからこそこの地域がどうなっていくのか、この地域をどうしていきたいのかを考えていくイベントとして、子育てイベント「ファミランド」を兼ねて3年ぶりに開催した。</p> <p>日時 7月23日(日) 10時～12時30分</p> <p>場所 伊勢農業協同組合 統一選果場</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ロケットくれよんによる親子コンサート ○木本高校JRC部・プチトマトによる発表、動画上映 ○子ども向け体験コーナー(色水づくり、お絵描きコーナー 他) ○大人向け体験コーナー(ハンドマッサージ、スワッグ作り 他) ○販売コーナー ○ファミサポサポート会員による託児 <p>参加者 700名(うちボランティア104名)</p> <p>実行委員会 ○ファミランド実行委員会 (子ども家庭室、つどい学童クラブ、みはま児童クラブ、子育て支援室) 開催日:5月10日、5月24日、9月16日</p> <p>○あいあい祭り実行委員会 開催日:6月1日、6月29日、9月16日</p>
総評	小学生ボランティアグループ「プチトマト」をはじめ、多数ボランティアのご協力のもと、子どもから大人までが参加し、交流を深める機会となった。新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で開催でしたが、参加者の皆様が安心して楽しめるよう、万全の対策を講じ、イベントを通じて人と人とのつながりや福祉について改めて考える機会を提供できたのではないかと。
課題	大きなイベントでは、人の流れなどを考慮し各コーナーの配置を工夫する。また、子ども向けイベントでは会場内だけでなく、外の安全対策にも十分配慮する。
その他(所感等)	3年ぶりの開催だったが多くの方が来場し、祭りを楽しみにしてくれていたことが感じられた。初めて統一選果場で開催ということで、どのくらいの電源が必要かや各コーナー・ステージの配置など、JAの方をはじめ専門の方に相談しながら準備をすすめた。改めて、地域の方の協力によりイベントができていくこと、日頃のつながり作りが大切であると感じたイベントであった。
改善への取り組み・方向性	ボランティアや福祉について考えていただき、新たなつながりのきっかけとして、イベントが有効であると考え。そのため、次年度も同様に目的を明確にし、内容を検討し、継続していくことにする。
特記事項	
記入者	腰當

事業名	ささえあいサービス事業																				
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 (利用料)																				
目的	「困ったときはお互いさま」の気持ちを大切に、日常生活での困りごとに関してサポートするサービスで、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進を目的とする。																				
事業内容	<p>◆ご近所活動 実績：年間利用延べ 216件 ○月別利用数 4月：17件 5月：17件 6月：15件 7月：20件 8月：23件 9月：16件 10月：18件 11月：20件 12月：19件 1月：18件 2月：14件 3月：19件 ○内容別利用数(延べ数)</p> <table border="0"> <tr> <td>庭の簡単な草取り</td> <td>37件</td> <td>住居の清掃・整理整頓</td> <td>56件</td> </tr> <tr> <td>ゴミ出し</td> <td>38件</td> <td>衣類等の洗濯</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>通院・外出の付き添い</td> <td>80件</td> <td>話し相手</td> <td>26件</td> </tr> <tr> <td>墓掃除</td> <td>0件</td> <td>窓ふき</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>その他</td> <td>6件</td> </tr> </table> <p>◆世話人活動 実績：カフェ世話人：115件 畑の世話人：221件 運転手：122件 ◎会員登録者数：48名(令和5年3月31日現在) [内訳] 依頼会員：23名 提供会員：25名 ◎研修会 権利擁護研修会 ・演題：【言語聴覚士の視点でのコミュニケーション】 ・講師：紀南病院組合 きなん苑 言語聴覚士 川崎 亮平氏</p>	庭の簡単な草取り	37件	住居の清掃・整理整頓	56件	ゴミ出し	38件	衣類等の洗濯	0件	通院・外出の付き添い	80件	話し相手	26件	墓掃除	0件	窓ふき	0件			その他	6件
庭の簡単な草取り	37件	住居の清掃・整理整頓	56件																		
ゴミ出し	38件	衣類等の洗濯	0件																		
通院・外出の付き添い	80件	話し相手	26件																		
墓掃除	0件	窓ふき	0件																		
		その他	6件																		
総評	コロナの感染対策や活動に関する相談に寄添うことで、活動を継続することができた。また、ゴミ出しや掃除等の定期利用があり、定期的に利用している会員間の関係は深まっている。																				
課題	提供会員の高齢化も目立ってきているため、依頼の調整が必要となっている。ちょっとした困りごとに対応ができるよう、ニーズに合わせたコーディネートが必要である。																				
その他(所感等)	サービスの中には少し福祉の専門性を必要とする依頼もあるため、内容に合わせてサービス提供時間及び利用料金の見直しを行ったことで、活動のすみ分けができた。前年度に比べて全体の件数は減少しているが、定期的に利用している会員が多く見られる。																				
改善への取り組み・方向性	サービス内容を具体化することで、活動に参加しやすい形を作っていく。また、SNSや社協だよりなどで活動を周知しながら、会員の確保を行っていく。																				
特記事項																					
記入者	西																				

事業名	ふれあいサロン
財源元	<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	地区の高齢者を中心に、子どもから大人までが身近な場所に気楽に参加でき、生きがいやふれあいになる場を目的に開催する。
事業内容	<p>◆ふれあいサロン実績 実施：町内10箇所毎月1回、約2時間程度の開催 ○神木 ○上市木 ○下市木 ○引作・柿原 ○萩内団地 ○尾呂志 ○志原 ○山地 ○上地 ○阿田和 参加：年間延べ 836名 月別参加人数（参加者数） 4月：79名 5月：73名 6月：80名 7月：67名 8月：70名 9月：59名 10月：76名 11月：75名 12月：70名 1月：58名 2月：67名 3月：62名</p> <p>◆ 尾呂志・神木地区は月2回の開催</p> <p>◆ 訪問型ふれあいサロン実績 延べ148件</p>
総評	コロナ禍でも時短するなど工夫することで、活動を継続することができた。また、今年コロナの制限が少し緩和された時期もあったため、その状況に合わせて行動範囲を広げ、恒例の行事などを実施することができた。
課題	高齢化が進み、参加者の人数が減っている地区もある。また、長年継続的に参加していた方々が様々な理由で参加が難しくなっているケースもある。地域の状況に合わせて集まり方の工夫が必要であると考え。
その他（所感等）	お弁当を持って外出したり、外で食事をしたりするなど、新しい方法で楽しい時間を過ごせたと声を聞くことができた。
改善への取組み・方向性	日常が戻りつつある中で、コーディネーターとして、その人、地域に合った参加の形を提案しながら地域とのつながりを継続できるよう支援していく。
特記事項	
記入者	坂

事業名	ふれあい配食サービス
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	ふれあい型の配食サービスとして、高齢者宅へボランティアの手作りお弁当を配達することで、高齢者とボランティアとがふれあい、安否を気遣いながら地域で支えあって暮らしていける町づくりを目的とする。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆上市木地区 実施回数：9回 配達件数：延べ63件 ボランティア活動数：延べ9名 ◆下市木地区 実施回数：9回 配達件数：延べ710名 ボランティア活動数：延べ144名 ◆志原地区…5月、1月以外は手作り弁当 実施回数：9回 配達件数：延べ567名 ボランティア活動数：延べ118名 ◆神木地区 実施回数：9回 配達件数：延べ347名 ボランティア活動数：延べ72名 ◆阿田和地区…手作り弁当 実施回数：18回(2班に分けて実施) 配達件数：延べ1,249名 ボランティア活動数：延べ137名 ◆尾呂志地区 実施回数：9回 配達件数：延べ325名 ボランティア活動数：延べ97名
総評	各地区のボランティアの状況に合わせた実施ができた。調理は出来ずとも、配達なら続けられるという地区もあり「ふれあい型」の部分は継続できている。地区によっては、配達という形が活動を継続していくに新しい形となりつつある。
課題	配達を続けることができた一方で、ほとんどの地区が調理の再開が難しくなったり、ボランティアの意欲の低下が著しい半面、何とか活動を戻せないかと考えている方達もいる。気持ちに寄り添い目的を確認しながら活動を支援していく必要がある。
その他(所感等)	気象状況により配達困難な日もあったが、ボランティアと相談しながら配達できたことはボランティアにも活動する自信が持てたのではないと思われる。今後また、物価高騰により材料費や業者の弁当代を今後見直す必要もある。
改善への取り組み・方向性	地区の活動継続が困難な場合には、地区を超えた人材の発掘や育成や活動につながる講座などを考え、新たな人材育成に取り組む。
特記事項	
記入者	長田

事業名	子育てサロンの開催
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 (参加費、共同募金)
目的	同じ子育てをする者同士がふれあい、育児の不安や悩み事を相談するなど、地域の中で気軽に集える場所作りを目的とする。
事業内容	<p>◆ちびっこランドしはら 実施：毎月第2火曜日 10時00分～11時30分 (8月と1月は休み) 場所：志原公民館 ほか 参加： 38組 (12月はだるまランドと合同で実施)</p> <p>◆だるまランド(ちびっこランドいちぎ) 実施：毎月第4火曜日 10時00分～11時30分 (12月はしはらと合同で実施) 場所：下市木公民館 ほか 参加： 88組</p>
総評	コロナによって休止することなく、感染対策をしながら2か所のサロンの特色を生かし実施することができた。また、子育て支援室と合同で開催し、SNSなどで情報提供などすることで新しい参加者が増えた。
課題	ニーズを聞きながら、サロンの開催場所や回数を検討する。
その他(所感等)	コロナの影響により、ボランティアによる手作りのカレーや豚汁などの食事をしながらの交流を中止していたが、少しずつ再開できるようになり、徐々にコロナ前の活動を再開する動きが見られるようになってきた。
改善への取り組み・方向性	次年度にも、それぞれの特色を生かしたプログラムの内容を検討していく。また、子育て支援室を受託することで、ニーズを聞き支援室の事業と連動しながら取り組み、SNSやチラシの配布など情報提供を継続する。
特記事項	
記入者	和田

事業名	子育て支援活動の展開
財源元	<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	子育て支援活動の充実を目指して、ボランティアセンター等と協働で人材育成や御浜町事業、イベント等へのコーディネートを行う。また、子育てに関するたまり場支援として、従来の場は基より保護者のニーズに応じて新しい場の立ち上げ支援を行い、地域で子育てをしていくことの必要性を再確認していただく。
事業内容	<p>◆御浜町ファミリーサポートセンター事業 《ファミサポの実績》 依頼会員：36名（新規登録者数6名） サポート会員：11名（新規登録者数0名）※うち両方会員4名 活動実績：0件 その他の活動：毎月の乳児健診、セカンドブックなどの訪問活動 ○サポート会員交流会 実施：3月6日（月）10時～11時 参加：5名</p> <p>◆子育て支援派遣 ○育児用品リユースで、サポート会員と親子の交流会を実施 ○ファミサポだよりの作成・配布、おひさまトークの実施 ○生活困窮家庭の継続訪問を実施 ○おひさま公式LINEでの情報発信（イベント・行事の周知や報告など） ○「チャレンジ第1回あいあい祭り」、人材育成イベント「ふらっとフェス」でサポート会員による託児を実施</p> <p>◆育児用品プレリユース・リユース広場 実施：年4回 参加者：プレリユース延べ8名、リユース広場延べ25組</p> <p>◆子育てイベントを兼ね「チャレンジ第1回あいあい祭り」を開催 実施：7月23日（土）10時～12時30分 来場者：700名</p>
総評	子育てイベントを兼ねあいあい祭りを開催し、多くの方に来場いただいたことから、イベントを通じた居場所づくりの必要性を感じた。一方で今年度はファミサポの活動実績はなかった。
課題	保護者からは、子育てイベントや行事でサポート会員による子どもの見守りがあることで、リフレッシュになっているという声が聞かれているが、ファミサポの利用にはつながっていない。
その他 (所感等)	活動や話し合いの場を通してファミサポのサポート会員同士の交流が深まり、話をしていると笑いが絶えず良い雰囲気を保っているため、うまく活動につなげていきたい。
改善への取組み・方向性	子育て支援室の受託をすることから、事業全体を整理する。公式LINE等を活用し情報発信を行いながら、おひさまトークを通じて親とコミュニケーションを図り、ニーズ把握に努める。
特記事項	
記入者	腰當

事業名	カフェ「1go1笑」におけるの小地域福祉活動の展開
財源元	<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	地域の福祉拠点の1つと位置づけ、地域や障がいのある方の憩いの場となるようコミュニティカフェへの展開を図る。
事業内容	<p>◆実績 開催：63回 参加：延べ577名 (午前117名、午後460名(精神カフェ利用の方も含む)) 平均利用人数：午前 1.7名・午後 7.7名 送迎：要事前予約 (現在3名利用) 場所：旧喫茶若松 (阿田和4219-10) 実施：毎週火曜日 10時00分～15時30分 (ランチタイム11時00分～13時00分) 毎月第2木 13時～15時(精神カフェ) 協力事業所：・(有)あおぞら ・NPO法人つどい ・(有)であい ・(株)ひまわり介護サービス</p> <p>◆その他 ・毎月第2木曜日に精神カフェの開催 ・第4火曜日 ボランティアによる読み聞かせを実施 ・日替わりランチをテイクアウト弁当にして販売(カフェは午後のみ開店) ・座談会の会場として利用 ・夏期かき氷の提供、カップ氷(100円)のお持ち帰りも実施 ・KIIカードキャンペーンへの協力としてお食事券の発行</p>
総評	最近の傾向として、ランチを楽しみに来られ、お店がいっぱいになるまで食後もゆったりとされていく方が増えている。また、毎週楽しみに来られる方は、スタッフとの会話や客同士の会話を楽しんでおられ、人とのコミュニケーションを楽しむことができる場所となっている。さらに、介護や生活などの気持ちのはげ口にもなっており、カフェに来て話すことでスッキリして帰られる方もいる。ここでは、悩みやストレスを解消する場所としても機能している。一方、認知症当事者の利用は少ない。
課題	ボランティアの読み語りを共有する場所としても機能しているが、認知症当事者の利用は少ない。また、物価の高騰によるメニュー値段の見直しが必要になると思われる。
その他(所感等)	お洒落なランチを提供することより、地元野菜を多く使ったホットとできるお昼ご飯を提供することにこだわり、世話人に協力いただきながら取り組んできた。世話人の確保も課題となっているため、新たな関わり方の形を検討し、多くの方に協力していただけるよう取り組んでいきたい。
改善への取り組み・方向性	何気ない相談が、会話の中で行われているため、「相談」としてスタッフ側は意識する。また、認知症カフェの位置づけを意識しながら事業に取り組んでいく。
特記事項	
記入者	長田

事業名	当事者及び当事者組織に対する支援の実施
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 (共同募金、参加費)
目的	在宅の高齢者や心身障がい者の方などに対し、必要に応じて新規たまり場づくりやボランティアと民生委員児童委員等との協働による支援を行うほか、社会参加を図る各種支援事業を実施する。
事業内容	<p>◆フレンドの会 実績：年間8回 参加：延べ 107名 内容：遠足、ショッピング、ボウリング、ゲーム、防災教室 旅行、運動サロン、書き初め</p> <p>◆紀南地域生活交流会 実績：4回 参加：延べ 38名 内容：絵合わせパズル、チャレンジ祭り、ボッチャ大会 振り返りとビンゴ</p> <p>◆歳末事業 実施：令和4年12月26日(月) 参加：44名(フレンドの会、南紀さんさんワーク、プチトマト、 サロンひよこの会、ボランティア) 内容：忘年会(ゲーム大会)</p> <p>◆在宅介護者に対する支援事業 実績：年間5回 参加：延べ9名 内容：交流会</p> <p>◆あくしゅの作成と配布 実績：年3回発行 読者数：219名</p> <p>◆声の広報配布事業 実績：年間12回 対象者：3名 ボランティア：6名</p>
総評	年度当初は、コロナのため自粛が続き活動が危ぶまれたが、正しく感染予防対策を行い、集まり方や内容等工夫することで形を変えながら実施することができた。
課題	活動が継続できるようにボランティア等とも協働し、それぞれの特性をみながら運営の支援を検討していく。
その他(所感等)	個々での活動もあるため、つながりを感じてもらおう工夫が必要である。
改善への取り組み・方向性	障がい者の方々等、集まり生きがいや交流を深めるグループに対して、ボランティア等との協働により運営の支援を行う。
特記事項	
記入者	坂

事業名	神木ほのぼの館を活用した地域福祉活動の展開
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	地域の福祉拠点(神木ほのぼの館)を開放し、地域福祉の観点から児童から高齢者が気軽に集まれるスペース(たまり場)を確保するとともに、神木地区のニーズ把握活動や各種会議を開催し、コミュニティーの形成を図ることを目的としている。
事業内容	<p>◆よりみち広場 実施：毎週火・木曜日の13時から17時まで一般開放 ボランティアグループ「和」に開設を依頼 (8月1日～8月13日、12月23日～1月10日の期間は休み) 参加：1,061名(1日の利用者数 約13名程度) 開催：年間81日</p> <p>◆その他活動 ふれあいサロン「ひよこの会」会場として活用 神木地区のストレッチ同好会が発足しその会場として活用 ひきこもりの家族の会の会場として活用(新規)</p> <p>◆和主催の活動・講座など 学童及び小学校でエコクラフト教室(1回) 押し絵教室(2回)</p>
総評	「よりみち広場」は、コロナの影響で一時期活動を休止することがあったが、コロナが落ち着いた際には、ボランティアグループ「和」によって再開することができ、参加者数も安定している。「よりみち広場」はふれあいサロンの会場として継続的に活用されるほか、今年度よりひきこもり家族の会の集まる場所としても活用され、コミュニティーの促進につながっている。
課題	町内、神木の方のニーズに合わせた利用促進をどのように図るか住民の意見を聞きながら検討していく。
その他(所感等)	
改善への取り組み・方向性	各世代を意識した事業展開や介護予防事業、ほのぼの館の活用等、神木や町域のニーズに合わせた各種事業展開を図り、児童から高齢者まで気軽に集まることができるたまり場を目指した地域福祉活動を推進していく。また、併せて広報等活用し周知啓発を行っていく。
特記事項	
記入者	喜田

事業名	児童生徒ボランティア啓発事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 (共同募金)
目的	御浜町内の小・中学校および高等学校を対象として、高齢者及び障がい者等との交流や各種福祉活動等により、ノーマライゼーションやボランティアに対する理解を深めるとともに、思いあひとやさしさの心を育むことで、児童、生徒を通じて家庭及び地域社会の啓発を図ることを目的とする。
事業内容	<p>◆ボランティア協力校事業 (各3万円助成) 実績：町内小中高校 8校 内容：各学校において地域との交流会や美化活動、人権学習、福祉体験等</p> <p>◆福祉教育推進校 (1事業につき1万円助成、最高5万円まで助成) 実績：神志山小学校 1校 内容：福祉体験学習 『手話教室』、『人権学習』 参加者：児童 18名 教員 (支援員含む) 6名</p> <p>◆学校からの依頼による福祉体験 実績：4校実施 (阿田和中、御浜中、御浜小、神志山小) ○阿田和・御浜中学校 内容：車イス体験、福祉講話 (1年生対象)、認知症講座、福祉を深めるワーク ○御浜小学校・神志山小 内容：福祉講話・車イス体験、障がいに関する講話・ボッチャ体験 (4年生対象) 協力者：土井氏 ○御浜小学校・神志山小 内容：昔遊び (1・2年生対象) 協力者：下市木・志原・神木老人会 ○御浜小学校 内容：健康福祉センター見学、事業への参加 (1年生対象)</p> <p>◆子どもボランティアグループプチトマト 登録人数：18名 活動：プチトマト会議 (6回) 地域との交流 ・チャレンジあひあい祭り 7/23 (土) 10時～12時30分 17名 ・ふれあいサロン 8/19 (金)、8/23 (火) 10時～11時30分 歳末事業に参加 12/26 (月) 12時から15時 16名 配食弁当に添える手紙作成</p>
総評	今年度においても活動はできる限り継続して行いたいという学校の意向がみられ、活動につながった。 プチトマトの活動においては、あひあい祭りやふれあいサロン、配食の手紙づくりなどを通して、地域の方とふれあう機会を多く持ったことで、思いあう心を養う場となった。また、活動の場を定期的に持つことで子ども達同士の仲も深まり、上級生が下級生をサポートする場面が見られた。
課題	学校の福祉教育においては、学校側のニーズを把握し、福祉体験の目的を明確にし、その目的にあわせて他の関係機関との連携も意識し、プログラムを提案していく。
その他 (所感等)	前年中止となった児童と地域の方との交流も今年度は開催でき、その後の継続的な活動につながっている。プチトマトの活動においては、イベントへ参加し、地域の方と交流の機会を持つことで、自分達の活動を評価してもらうことができ、やりがいを感じられたのではないかと。
改善への取り組み・方向性	学校及び地域のニーズを把握し、学校と地域がつながりが持てるように提案をしていく。
特記事項	
記入者	仲・腰當

事業名	みはまっこ体験クラブ
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	町教育委員会やボランティアとの協働で、子どもたちがさまざまな体験活動ができる場と気軽に安心して集える場(たまり場)作りとして開催する。また、新しい人間関係や仲間づくり、地域の様々な世代の方々とふれあいを通じて、子どもたち自身が地域を理解し、活動する自覚や能力を育成する。
事業内容	<p>◆実績【みはまっこレンジャー企画分】</p> <p>第1回 走り方教室 5月21日(土) 13時30分～15時 場所：尾呂志学園グラウンド 参加者：30人</p> <p>第2回 ダンス教室 6月26日(日) 13時30分～15時 場所：阿田和公民館 参加者：24人</p> <p>第3回 科学教室 11月19日(土) 9時30分～11時45分 場所：健康福祉センター 参加者：9人</p> <p>第4回 クリスマスリース作り 12月4日(日) 9時～11時30分 場所：阿田和公民館 参加者：20人</p> <p>第5回 凧作り 12月10日(土) 9時30分～11時30分 場所：健康福祉センター 参加者：10人</p> <p>第6回 UVレジン 2月18日(土) ①9時30分～11時 /②13時～14時30分 場所：志原公民館 参加者：30人</p>
総評	当初、計画していた講座を無事に開催し、子どもたちが体験活動を楽しめるような場を作り、参加者同士の交流も促進できた。前年の反省を踏まえ、講座を2回に分けて開催するなど工夫をし、多くの子どもたちに参加していただくことができた。
課題	講座をすることだけが目的とならないよう、目的を確認しながら進めていくことが必要である。
その他(所感等)	子どもたちから「楽しみにしている」という声が聞かれ、ボランティアグループの活動目的を再確認することができた。
改善への取り組み・方向性	前年度に引き続き、ボランティアグループ、教育委員会、社協の協働として各団体の目的を定期的にしり合わせる。開催講座によって開催時間や回数を検討しながら実施していく。また、参加者から開催講座に関するアンケートの実施を検討する。
特記事項	
記入者	仲

事業名	地域福祉教育推進事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金）
目的	地域内における児童福祉と地域福祉の推進を図る観点から、子どもを含めた地域住民が数多く参加し、地域内の人と人とのつながりを深めると共に世代間交流等の促進を通じて、地域福祉コミュニティーの形成を図ることを目的とする。
事業内容	<p>◆福祉コミュニティー推進事業（地区助成事業）</p> <p>○尾呂志地区育成会 夕涼み会 日時：7月2日（土）18時30分～20時30分 場所：尾呂志学園</p> <p>◆地域福祉活動助成事業（小地域助成事業） 実績：なし ※コロナの関係で活動を自粛のため</p>
総評	各地区で例年行っている交流事業に関して、実施に向けて問い合わせは多くあったが、コロナの感染拡大により実績としては1件であった。育成会や地域の方々との交流の機会となるため、活用していただけるような働きかけが必要である。
課題	活動を再開していく可能性は高いが、自粛期間が長かったため、金銭面での支援に加え、実施方法について提案するなど働きかけが必要である。
その他（所感等）	尾呂志地区の夕涼み会は、幅広い年代の方が参加され、どの年代の方も楽しめるよう工夫されていた。久しぶりの開催ということもあり、育成会の方も子ども達も生き生きと取り組まれていた。
改善への取り組み・方向性	社協だより等で広報を行うとともに、形を変えてできる方法なども提案し、地域活動に活用していただけるように働きかける。
特記事項	
記入者	腰當

事業名	ボランティア育成事業の実施
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	地域福祉に関する意識の啓発や、住民参加による福祉活動ボランティアの普及・啓発・育成のためにさまざまな養成研修、講座を開催する。
事業内容	<p>◆学生ボランティア講座 実施:12月3日(土)9時30分～12時00分 対象:町内の小学生 1～4年生 参加:7名(男子2名、女子5名) 4年生…1名 3年生…1名 2年生…2名 1年生…3名 内容:グループホームひぐらしの方とオンラインで交流し、己書(おのれしよ)を習って合同作品作成。その後、御浜町役場等で展示(1月～4月) 講師:己書(おのれしよ)ちえの和道場 石橋千英子氏 協力:グループホームひぐらし</p> <p>◆しゅみ活動講座 【1回目】 実施:8月31日(水) 1時30分～15時30分 参加:7名 内容:健康麻雀～楽しく介護予防を～ 講師:川本 集一氏・補助:垣内美生氏 【2回目】 実施:10月20日(木) 14時～15時30分 参加:7名 内容:己書(おのれしよ)講座 講師:石橋 千英子氏(那智勝浦町)</p> <p>◆手話教室 実施:8月25日(水)13時30分～15時00分 参加:26名(小学生) (福祉センター6名、Zoom参加者 つどいあたわ学童19名、自宅1名) 講師:手話サークル「オレンジ」 山本容子氏(ろう者) 山本恭子氏(手話通訳者)</p>
総評	コロナ禍のため、少人数での開催となったが、近くで活動している方を講師に迎えることで、今後の活動のつながりが見えた。また、オンライン活用の講座をすることで、離れていてもつながれることを参加者にも体験していただけた。
課題	世代別ニーズを把握する方法を考え、継続できる内容を選定するためには参加者が興味を持ち続けるようなテーマやシリーズ化を検討する必要がある。
その他(所感等)	コロナにより生活様式が変化する中で、地域の状況に合った講座等が提供できるように情報収集が求められる。
改善への取組み・方向性	講座を行う際に単発ではなく次の展開も意識した内容の検討し、興味のあるものを探るために、訪問やアンケート調査などを行う。
特記事項	
記入者	長田、和田

事業名	居宅介護支援事業(御浜町ケアサポートセンター)											
収入の状況	当初予算額	23,346,000	収入実績額	20,436,730	達成率	87.5%						
目的	<p>事業対象者や要支援者及び要介護者が心身の状況や置かれている環境等に応じて本人や家族の意向を基に、サービスを適切に利用できるよう、サービスの種類、内容等の計画を作成するとともにサービスの提供が確保されるよう指定居宅サービス事業者、介護保険施設等との連絡調整、その他の便宜を図る。</p>											
事業内容	<p>要介護状態となった場合においても、その利用者様が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営む事ができるよう配慮し、利用者様の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者様の選択に基づき、適切な保健医療サービス及び福祉サービスが多様な事業者から総合的かつ効率的に提供していく。</p> <p>【年間延べケアプラン数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業対象者</th> <th>要支援者</th> <th>要介護者</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35</td> <td>301</td> <td>1,167</td> <td>1,503</td> </tr> </tbody> </table>				事業対象者	要支援者	要介護者	計	35	301	1,167	1,503
	事業対象者	要支援者	要介護者	計								
	35	301	1,167	1,503								
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度は半年間ケアマネ4名体制で行えたが、その後再び3名体制となった為、新規利用者の受け入れも引き続き厳しい状況となり、前年度より17名少ない月平均125名の方の支援をさせて頂いた。 ◆引き続きコロナ禍で入院中や施設の面会が難しい状況の中、自宅で過ごす選択をされた方々には主治医を始め、多職種との連携を図りながら支援を行った。 ◆往診して頂ける医師が少なく、通院が困難となった方についての支援に苦慮する事があった。 ◆町内の訪問看護事業所が1か所閉鎖した事が、訪問看護を利用していた方を急遽他事業所への割り振りを行うことができた。 											
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆特定事業所加算による記録、加算に対する記録などの事務負担が大きい。 ◆コロナが5類に引き下げられたが、引き続き感染予防対策が必要となっている。 ◆自宅で最後まで過ごしたいと希望される方が増えてきている中、利用できる介護サービスには限りがあり調整に苦慮する事がある。 ◆町内の訪問看護事業所が1か所閉鎖した事により、訪問看護の受け入れが厳しくなっている。 											
その他(所感等)												
改善への取組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ケアマネ4人体制を目指し、利用者様の受け入れをコンスタントに行えるようにしていく。 ◆コロナが5類に引き下げられたが、訪問時は引き続きマスク等の感染対策を継続していく。 ◆限られた資源を活用しながら出来る事を行う。 											
特記事項												
記入者	植村											

事業名	訪問介護事業(御浜町ヘルパーステーション)					
収入の状況	当初予算額	17,630,000	収入実績額	15,772,213	達成率	89.5%
目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援する。					
事業内容	ホームヘルパーが事業対象者や要支援及び要介護状態の高齢者の居宅を訪問し、入浴、排泄、食事介助等の身体介護、生活全般(掃除、洗濯、買物、調理等)に亘る生活支援を行う。 その他、通院等のための乗車又は降車の介助を行う。					
	【年間延べ利用者数】					
	事業対象者	要支援者	要介護者 (乗降のみ除く)	乗降介助 のみ	計	
	19	826	3,651	124	4,620	
	[年間キャンセル数： 305件 利用率： 93.8%]					
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者数は年々減少している。 ◆訪問回数の多い利用者様が、入院や施設入所で中止になると、利用者数が大きく減少する。 ◆定例会では、毎月テーマを決めて行い、再認識しサービスの質を向上や情報を共有することができた。 ◆利用者様がデイサービス等を利用することで、訪問日時が限られ対応が難しい。 ◆ヘルパーの確保が難しい、朝・夕方、土日等の訪問希望が増えている。 ◆ヘルパーの人数が増えず、新規の依頼があっても希望に添うことが難しく、受け入れ可能な範囲しか対応できない。 ◆在宅での看取りや、病気になっても在宅生活を希望する利用者様も重なり、調整困難であったが、近隣の他事業所も同じ状況の為、受け入れを行ったところ利用者様や家族等に喜んでもらえた。 					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆パートヘルパーが不足しており、毎日訪問や訪問回数の多い依頼には対応が難しくなる。 ◆介護者側の視点ではなく、利用者様に合わせ自立に向けた支援を行うことで、安心して生活を送れるようサービスを提供していく。 ◆利用者様をしっかりと把握し、寄り添った支援や対応が取れるよう心がけていく。 ◆利用者様の体調管理だけでなく、ヘルパー自身の体調管理も個々でしっかりと行っていく。 					
その他 (所感等)						
改善への取組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆研修会へ積極的に参加し、定例会等で共有する事により、個々の質の向上を目指していく。 ◆利用者様や家族様との信頼関係をしっかりと築き、サービスの質を統一する。 ◆ヘルパーの年齢も上がり、支援の内容や体への負担を考慮しながら、均等に業務が行 					
特記事項						
記入者	桐本					

事業名	通所介護事業(御浜町デイサービスセンター)			
収入の状況	当初予算額	72,905,000	収入実績額	73,680,099 達成率 101.1%
目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が居宅において、可能な限り現在の日常生活を維持・向上していけるように、機能訓練や認知症予防等、個別のニーズに合わせてサービス提供することで、利用者様の社会的孤立の解消や家族の介護負担の軽減を目的とする。			
事業内容	利用者様の身体機能の維持向上や楽しみ、生きがいにつながる様に、送迎、昼食、入浴、機能訓練、レクリエーション等のサービスを提供する。また、本人や家族様の介護に関する相談や助言を行うことで、在宅生活の延長であるデイサービスを身近に感じていただく。			
	【年間延べ利用者数】			
	事業対象者	要支援者	要介護者	計
	73	364	6,514	6,951
	[年間キャンセル数： 639件 利用率： 91.6%]			
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆9月頃までは、新規依頼も多く利用者数も伸びてきていたが、10月に入ってから施設入所や死亡等の理由により中止者が目立ち利用者増にはつながらなかった。 ◆職員間(パート職員含む)の情報共有のため、ホワイトボードを活用することにより伝達ミスを防ぐことができています。今後も継続していく。 ◆正規職員間でも情報共有が不十分なところがあったが、Teamsを活用することで情報の共有につなげることができた。また、問題が発生した場合にはその日のうちにミーティングを行い、問題の解決に向けた話し合いをすることができた。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆職員の介護技術のばらつきを減らし、統一化を図る必要がある。 ◆職員の仕事に対する意識や支援の考え方に違いが見受けられる。 ◆認知症から理解力が低下し予測できない行動をする利用者様が増えており、転倒等のリスクが高くなっている。 ◆認知症の利用者様の症状に合わせた個別の対応をどうしていくか、検討していく。 			
その他(所感等)				
改善への取り組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆定例会にて、介護技術等に関する研修を行う。また利用者様一人ひとりに対し、統一されたサービスを提供できるようにする。 ◆介護事故が発生してしまった場合は、上位者へ報告すると共に迅速かつ適切な対応を図る。 ◆職員ミーティングは継続して行い、職員間で情報や課題の共有を密にすることで、問題の解決に努めていく。 			
特記事項				
記入者	西口			

事業名	訪問入浴事業(御浜町訪問入浴サービス)					
収入の状況	当初予算額	2,709,000	収入実績額	4,905,159	達成率	181.1%
目的	訪問入浴介護事業は、要介護者等がその心身の状況や置かれている環境に応じて、本人や家族の意向をもとに適正な訪問入浴介護を提供することを目的とする。					
事業内容	自宅まで訪問入浴車で訪問し、居室で入浴していただくサービス。 2分割式の浴槽を組み立て、利用者様ご本人の身体状況に応じ入浴ボードまたは入浴担架を使用し入浴を行う。利用時の状態により清拭での対応も行う。できるだけベッドの近くで入浴していただき、ベッドと浴槽間の移動は必ず介護職員が介助して行う。 【年間延べ利用者数】					
	要支援者 1	要支援者 2	要介護者 1	要介護者 2	計	
	0	0	0	94	369	
	要介護者 3	要介護者 4	要介護者 5			
	62	9	204			
[年間キャンセル数： 25 件 利用率： 93.7%]						
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度も前年度に引き続き、要支援者の利用はなし。 ◆年間を通じ昨年度より利用者数が増加した。理由としては、1日の利用人数が3～5名の間で変動しているが、週2回利用されている利用者様が2～3名おり、増加につながった。 ◆新規のご依頼は6名。2名の方が入院、1名がデイサービス利用、3名の方が死亡の為、利用中止となった。 ◆訪問看護、訪問診療等、医療サービスを利用されている方が多く、病状や、傷の処置等を含め、医療との連携が重要になっている。 ◆常に安全に気を配り、事故防止に努めた。 					
課題	◆終末期の方に多くご利用いただけるようになったが、短期の利用が多いため、1日の利用者数が安定しない。					
その他(所感等)						
改善への取り組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆訪問入浴事業は、経営的に厳しい面もある。現在は、町内でサービス提供を行っているのは社協だけだが、御浜町をサービス提供エリアとしている事業所もあり、今後について検討していく必要がある。 ◆他事業所のケアマネジャーにも周知を行い、新規利用者様の獲得に努めていく。 ◆他職種の事業者と連携を図り、統一されたサービスの提供に努める。 ◆安全・安楽を心がけ、喜ばれるサービスの提供に努める。 					
特記事項						
記入者	仲					

事業名	特定相談支援事業・障害児相談支援事業(御浜町指定障害者相談支援事業所)					
収入の状況	当初予算額	601,000	収入実績額	921,740	達成率	153.4%
目的	障がい者(児)がその有する能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように支援することを目的として、障がい福祉サービス等を提供する。					
事業内容	障がい者(児)がその有する能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営む事ができるよう配慮し、その方の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、本人又は障がい児の保護者の選択に基づき、適切な障がい福祉サービス等が、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう支援する。					
	【計画相談支援実数】					
	障がい児	区分1	区分2	区分3	計	
	2	1	1	3	22	
	区分4・5	区分なし	暫定			
3	1	11				
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆モニタリングだけでは(3か月に1回)、利用者様及びご家族様との関りが少ない為、家庭内の状況を把握できていない事もあった。また、利用者様及びご家族様と事業所間で、直接やり取りし完結している事が多々ある状況。 ◆今年度は生活介護の事業所が1か所増えた為、県外の事業を利用していた利用者様にご利用いただく事ができた。 ◆事業所間で意見交換する場が少ない状況だが、今年度はケアマネと合同で事例検討会の場に参加する機会があった。 					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者数が増えてくるとアセスメントやモニタリングに十分な時間を取って関わっていく事が難しい。 ◆計画相談を行っている事業所が少ない為、新規受け入れ等の業務負担が増える。 ◆地域に障がい者サービスの社会資源が少なく、個々の障がいにあったサービスを提供するのが困難な場合もある。社会資源が少ない中、地域全体としての取組みが必要。 					
その他(所感等)	◆ご両親が子どもの障がいを受容しきれていないと感じる場面もあり、一つ一つの言葉に細心の注意を払う必要がある。					
改善への取組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域として不足しているサービスや資源等もあるため、御浜町の障がい者福祉サービスの充実と向上が図れるよう、行政やサービス事業者と連携し取組んでいく。 ◆相談内容の多様化が考えられる為、柔軟な対応を行う。 					
特記事項						
記入者	植村					

事業名	障がい者への訪問サービス事業(御浜町ヘルパーステーション)					
収入の状況	当初予算額	115,000	収入実績額	83,410	達成率	72.5%
目的	<p>障害者総合支援法の趣旨に基づき、利用者の意思と人格を尊重するとともに、常に利用者の立場にたち、居宅において日常生活が営めるよう必要なサービスを提供し生活の質の向上等を図ることを目的とする。 (居宅介護事業・重度訪問介護事業(自立支援給付)、移動支援事業(地域生活支援給付事業))</p>					
事業内容	<p>移動の介助、生活全般(掃除、洗濯、買物、調理等)に亘る援助を行い、生活等に関する相談及び助言を行う。</p>					
	【年間延べ利用者数】					
	種別	実利用者数	延べ利用回数			
	自立支援給付	1	37			
	地域生活支援給付	0	0			
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆自立支援給付対象者の1名の方にご利用いただいた。 ◆ヘルパーとの信頼関係も築けており、体調不良時でも訪問希望がありサービス提供を行えた。 ◆以前に比べ、精神面も安定されていることが多かった。 					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者様は就労を行いながらサービスを利用されており、体調不良や通院等の外出もあり、変更も調整が難しい為、支援がキャンセルになることがある。 ◆同居家族もいるため、支援の必要性を考慮し、関係機関と連携していく。 					
その他(所感等)						
改善への取組み・方向性	◆各関係機関と協力し、安心した在宅生活を送るためにコミュニケーションを取り、意思を尊重しながら支援していく。					
特記事項						
記入者	桐本					

事業名	地域活動支援センター事業(にこにこデイサービス)					
収入の状況	当初予算額	2,592,000	収入実績額	2,245,920	達成率	86.6%
目的	障害者総合支援法に基づき、障がいのある方を対象に、参加者一人一人の個性を尊重し、創作的活動・生産活動・社会との交流促進及び相談支援を目的に開催する。					
事業内容	<p>◆実施：毎週水曜日</p> <p>◆内容：午前 朝の会や園芸活動（野菜や花の栽培、収穫等）、創作活動、お口の体操等 午後 テレビ体操やレクリエーション、おやつ、棒体操等のサービス</p> <p>◆延べ参加者数 378人</p> <p>園芸活動では主に野菜を育て、収穫や食の楽しさ等を体感していただけるように支援する。また、自分の役割や参加意識を持っていただくため、職員と二人組で当番制（昼食準備やお口の体操、棒体操の世話等）を設けている。更にボランティアの協力も得ながら、自分たちで栽培した野菜等を使った昼食やおやつ作りを行う。</p>					
総評	地域活動支援センターとして、障がいの疑いがある方の相談を受け、その方の次の活動の場として機能してきた。活動に関しては、ゲームや創作活動を通じて、季節の行事に合わせた要素を取り入れ、四季を感じていただきながら、一つの作品をみんなで協力して作り上げることで達成感を味わえるように工夫した。					
課題	長く利用していただいている利用者様が多いので、和気あいあいと出来ているが、介護保険との併用の方も出てくるなど、今後、高齢化に伴うサービス内容や選択が必要となる。					
その他(所感等)	今年度は新規の利用者様が2名増え、その方達もすぐに打ち解けて和気あいあいと過ごせていた。仲間同士で助け合いをする姿も多く見られた。					
改善への取り組み・方向性	身体機能の変化などにも留意し、それぞれの特性にあった支援が行えるようにしていく。					
特記事項						
記入者	坂					

事業名	福祉有償運送サービス事業					
収入の状況	当初予算額	96,000	収入実績額	83,600	達成率	87.1%
目的	要介護者や障がいのある方など、公共交通機関を使用して移動することが困難な方を対象に、通院、公的機関への用務等を目的に行う有償の送迎サービス。(道路運送法第79条第3号)					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 車両・・・福祉車両（軽4台）・一般車両（軽2台） ◆ 運転者・・・5名登録 ◆ 運賃・・・ <ul style="list-style-type: none"> 《介護保険連動型》片道2kmまで200円、 <li style="padding-left: 40px;">その後2km増す毎に50円加算 《介護保険外対応型》片道2kmまで300円、 <li style="padding-left: 40px;">その後1km増す毎に100円加算 ◆ 目的・・・通院、公的機関への用務など 					
	【登録会員数】					
	要支援者等	要介護者	身体障がい者	精神障がい者	知的障がい者	
	6	42	11	1	6	
	計				66	
【年間延べ利用者数・回数・走行距離】 延べ利用者数： 101 人 利用回数： 283 回 走行距離数： 1,362.0 km						
総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 通院のための乗降介助を中心に支援を行い、事故なく安全に運行することができた。 ◆ 毎月7名～10名の方にご利用いただいた。 					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 運転者として5名の登録をしているが、通常は訪問業務や、不定期で仕事を行っている為、時間の確保が難しく、送迎サービス業務を常に行うことはできない。 ◆ 車椅子車両対応の利用者が増え、通院日が重なることもあり、対応が難しい場合がある。 					
その他(所感等)						
改善への取組み・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 利用者様の状態に合わせ、安心して外出して頂けるよう支援していく。 ◆ 時間に余裕を持ち、ゆとりある運転を心がけ、安全運転を行うことに徹する。 					
特記事項						
記入者	桐本					

事業名	育児用品貸出事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（社協会費）
目的	住民相互の支え合い活動と地域福祉活動の観点から、子育て家庭に対して育児用品を貸出すことにより、子どもの健全な成長を支援するとともに、若い世代の方とのつながりを作り、また子育てに係る経済的負担の軽減を図り子育て家庭を支援することを目的に行う。
事業内容	<p>◆利用実績</p> <p>○長期間の貸出し（新生児や乳児を養育する保護者への貸出し） ベビーシート：2件 チャイルドシート：3件 ベビーカー：3件 ベビーベッド：2件 ベビーバス：2件 ベビーバスチェア：0件</p> <p>○短期間の貸出し（帰省や里帰り等の一時的な貸出し） ベビーシート：0件 チャイルドシート：2件 ベビーカー：0件 ベビーベッド：0件 ベビーバス：0件 ベビーバスチェア：0件</p>
総評	母子手帳交付時にチラシを配布するなど定期的に広報を行ったことで、短期間の利用にもつながった。チャイルドシートやベビーベッドは購入費用も高いためニーズがある。また、事業を通して、社協の行事や子育て支援室について案内したり、妊婦を対象にしたプレリユースで相談を受けることもあり、つながりのきっかけになっている。
課題	利用期間は重なることはなかったが、必要に応じて育児用品の購入を検討する必要がある。
その他（所感等）	徐々にベビーベッドやチャイルドシートの需要が特に高くなっている。里帰り出産による祖父母の利用も増え、利用者から喜びの声が聞かれている。また、子育て支援室で相談を受けることもあり、つながりのきっかけにもなっている。
改善への取り組み・方向性	定期的に広報を行い、育児用品貸出事業から子育て支援室の利用や育児用品リユースなどへの参加へとつながり作りを意識して対応していく。
特記事項	
記入者	腰當

事業名	在宅介護者支援事業
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
目的	在宅で介護されている家族または要支援・要介護の状態となっている方々に対して、在宅介護負担の軽減を目的に必要な介護機器・福祉車両等の貸出を行う。
事業内容	<p>◆車イス車両貸出実績： 32件 4月：2件 5月：2件 6月：3件 7月：3件 8月：1件 9月：3件 10月：0件 11月：2件 12月：3件 1月：4件 2月：3件 3月：6件</p> <p>◆ストレッチャー車両貸出実績： 1件 4月：0件 5月：0件 6月：0件 7月：0件 8月：0件 9月：0件 10月：1件 11月：0件 12月：0件 1月：0件 2月：0件 3月：0件 [用途別貸出件数] 医療機関への通院治療及び入退院 29件 福祉施設への入退所 3件 その他（コロナワクチン接種） 1件</p> <p>◆介護ベッド貸出実績： 6件（長期貸出： 6件） 4月：1件 5月：0件 6月：1件 7月：1件 8月：1件 9月：0件 10月：0件 11月：0件 12月：1件 1月：0件 2月：0件 3月：1件</p> <p>◆車イス貸出実績： 42件（長期貸出： 2件） 4月：4件 5月：2件 6月：4件 7月：4件 8月：2件 9月：2件 10月：5件 11月：5件 12月：3件 1月：4件 2月：2件 3月：5件</p>
総評	ベッド、車イスともに一定のニーズがあり、在宅生活におけるQOL向上につながっている。車イスは、怪我や体調不良の為、生活において一時的に必要な方々に対する必要性は高い。福祉車両に関しては、通院治療が大半である。通常の車両では外出が難しい方の定期通院に活用していただけた。高齢者や障がい者、ケガ等の理由により通常の車両での外出が困難な方への外出支援のツールとして必要性は高い。
課題	通院の為の利用がほとんどであったが、生活支援につながる外出に対する貸出しもあった。生活支援での外出に対する貸出しについて周知し、活用していただけるようにする。
その他 (所感等)	ベッドの貸出しに関しては短期利用となるケースの増加に合わせて、要綱の見直しを行った。
改善への取組み・方向性	次年度においても貸出前、返却時に点検・消毒を行い、安心・安全に利用していただけるよう留意する。ベッドに老朽化が見られるため、必要に応じて購入も検討する。HPや広報誌等PRについては今後も継続して行う。
特記事項	ベッドは1台部品破損、1台中古で購入し24台となった。 車イスは1台の寄付があった。
記入者	西

事業名	福祉系サークル等に対する協力
財源元	<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 (社協会費)
目的	福祉団体等の事業に対して、施設やマイクロバス等の車輛貸出等を行うことにより、地域福祉の推進やボランティア・市民活動への支援及び社協活動の周知に繋がることを目的とする。
事業内容	<p>◆手話サークル 年間を通じて手話学習会を開催し、技術の向上を継続的に図る ○実施:毎週火曜日 19時30分～21時 ○開催:44回/年(年末年始、盆、感染状況により休みもあり) ○会員:30名 ○場所:町福祉健康センター</p> <p>◆マイクロバス等の車輛貸出 次の事業を行う団体にマイクロバスの貸出を行う。 (一部の団体はワンボックス車可) 【利用可能団体】 ・御浜町内の福祉団体 ・町内の各自治会、町内の各自主防災組織 ・公共性の高いと思われる団体等 ・御浜町役場、町内各小中学校 ・ボランティア・市民活動に該当すると思われる団体で、御浜町ボランティアセンターへ登録している団体 ○貸出実績:24件(マイクロバス24件) キャンセル0件 ○貸出団体:7団体 ・御浜中学校 ・阿田和中学校 ・阿田和小学校 ・尾呂志学園小中学校 ・南紀さんさんワーク ・AMドリームス ・御浜町老人クラブ団体連合会</p>
総評	手話の学習会も町内の感染状況をみながらの活動となったが、フェイスシールドを使用するなど、基本的な感染予防を行いながら勉強会を開催されていた。 マイクロバスの貸出は、地域にも周知され出したことや、活動が少しずつ再開してきたため前年より貸出件数が増加した。
課題	マイクロバスについては貸出件数が増えたことで、事業との兼ね合いや予約の重複をしないよう注意が必要。
その他(所感等)	手話サークルにおいては町外以外の参加者も増えており、楽しみながら手話が学べる場となっている。 マイクロバス貸し出しについては町外の団体からも貸出しについての問合せが増えている。貸出しの対象となる団体か都度確かめながら対応していく。
改善への取組み・方向性	前年度同様、状況に応じながら、申請時には滞りなく利用いただけるよう活動をサポートしていく。
特記事項	
記入者	長田、畑野

